

#### [特徴]

- ・見える化機能 (LANマップ、ダッシュボード)
- ・スループット:最大2Gbit/s ・IPsec スループット:最大1.5Gbit/s
- ・NATセッション数:65,534
- ・スマートフォン/タブレット連動(L2TP/IPsec)

#### [インターフェース]

- 全ポートギガビットイーサネット搭載
- ・ISDN S/T インターフェース
- ・電源スイッチ → パワーオフログ保存機能
- 電源 AC100 ~ 240V、電源インレット(C13タイプ)、 電源コード抜け防止金具、低消費電力(最大14.5W(28VA))
- ·動作環境条件:周囲温度0~45℃





#### LANソリューション

ヤマハルーターやファイアウォールに搭載されたスイッチ制御機能ま たはLANマップ機能は、ヤマハのスイッチや無線LANアクセスポイント を制御し、LANを見える化する機能です。スイッチ制御機能では、各種 設定に加えて、トポロジー(LANの配線状態)の表示、スナップショット (LANの配線状態を記録して状態の変化を通知する機能)、ホスト検索 などが行えます。RTX1210に搭載されるLANマップは、スイッチ制御が 進化して、デザインを一新し、LANに繋がった端末の一覧・管理できる ようになりました。



RTX1210の状態を見える化する機能です。



LANを見える化する機能です。

#### ●20周年ロゴに込めた想い

ヤマハブランドを象徴する音叉マークが表す3つのエレメント「Technology」「Manufacturing」「Sales」

ヤマハネットワーク機器を扱っていただく3つのリレーションシップ「Distributor」「System Integrator」「End User」

Yamaha Network Devices **Since 1995** 

20周年サイトはこちら

http://jp.yamaha.com/nw20th/

ヤマハネットワーク機器に関する詳細な情報はホームページをご覧ください > jp.yamaha.com/products/network/



ヤマハ株式会社 〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1 お問い合わせ先





◆ 静岡で開発

◆ 静岡と蘇州の自社工場で生産

◆ 国内SOHOルーター市場シェアNo.1



**Since 1995** 

TTT

見える。

つなぐ。

ヤマハ。

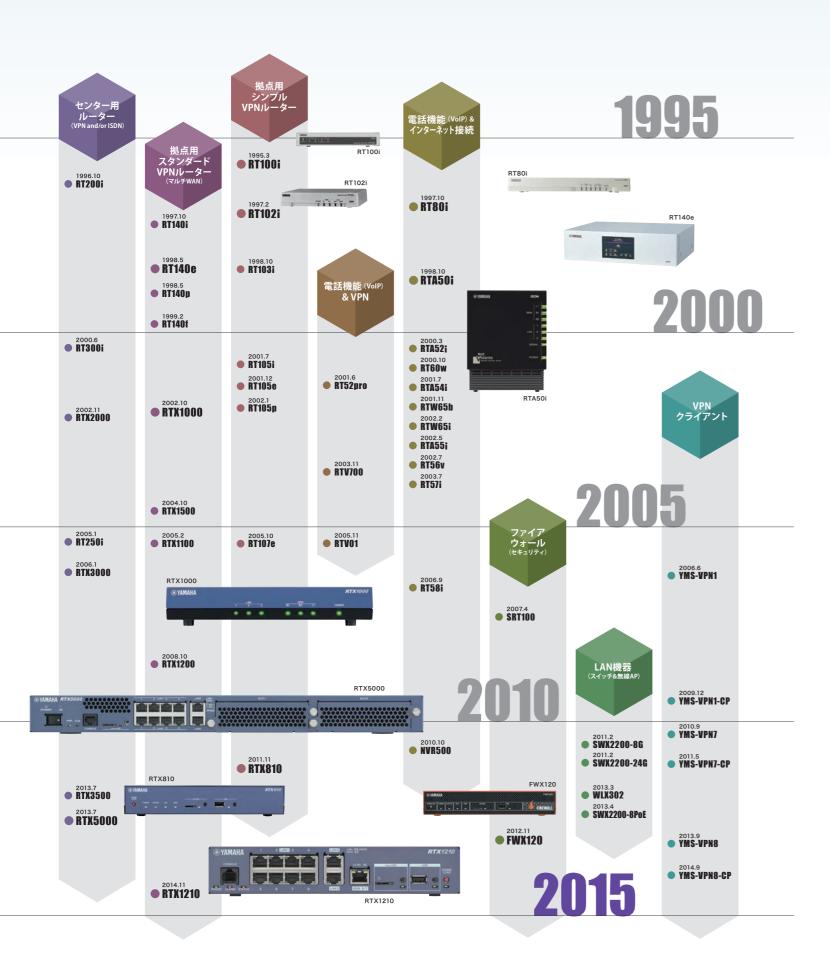
インターネットと共に歩む

# ヤマハネットワーク機器



### ユーザーの声とともに進化を続けた

## ヤマハネットワーク機器の歴史



#### 静岡で開発

1887年、ヤマハ株式会社は、創業者の山葉寅楠が 浜松尋常小学校(現元城小学校)のオルガン修理を 切っ掛けに創業しました。楽器製造から派生した デジタル音声処理技術を応用して、1987年に通信 用LSIに参入しました。ヤマハネットワーク機器は、 1995年に通信用LSIの応用製品の一つとして生まれ、 本社のある静岡県浜松市で開発しています。

O



#### 静岡と蘇州の自社工場で生産

ヤマハネットワーク機器は、国内と海外の二つのヤマハグループの製造会社で生産されています。一つは、株式会社ヤマハミュージックエレクトロニクス(本社は静岡県磐田市)の豊岡工場と袋井工場、もう一つは、中国の蘇州にあるヤマハ・エレクトロニクス(蘇州)です。両社ともヤマハの製造品質を大切にしたモノづくりを実践しています。



ヤマハ・エレクトロニクス

#### ■ ヤマハネットワーク機器の黎明

1987年にデジタル音声処理技術を応用したデジタルFAXモデムLSI (大規模集積回路)を発売。そして、1989年、当時、普及が始まったばかりのISDN LSIを発売しました。その後、いくつかのISDN回線を利用した応用端末の開発を経て、日本の商用インターネットが始まった直後の1995年3月にISDNリモートルーター『RT100』を発売したのがヤマハのネットワーク機器の始まりです。2015年3月に20周年を迎えました。



#### コミュニティに育てられたルーター

『RT100i』の発売と同時に「rt100i-users」と呼ぶメーリングリストの設置を通して、ユーザー同志またはユーザーと開発者とのコミュニケーションを活性化するコミュニティを作りました。このようなコミュニティで情報交換される悩み、課題、不具合報告、活用例などについて傾聴し、ユーザーと一緒に作り上げる姿勢を大切にしてきました。最近では、インターネット利用の変化に合わせてプログ、ツイッター、ヤマハネットワークエンジニア会と運営の幅を広げております。



yne.force.com

#### ヤマハらしいネットワーク機器の誕生

1994年に登場した商用インターネットは、アナログ電話回線でダイヤルアップ接続していました。当時のアナログ回線用モデムのスピードは、28.8kbps~33.6kbps、その後56kbpsに高速化されましたが、ISDN回線は64kbpsで2回線分同時利用できることや高速性・信頼性の高さから注目を集めていました。そして1997年頃からISDN回線を使って電話機能とインターネット接続機能を1台でこなせる製品が登場し、ヤマハも1997年10月に『RT80i』を発売しました。ISDNダイヤルアップルーター戦国時代に旗揚げです。RT80i発売直後より「小型化・低価格化・電話とインターネットのオールインワンの追求」と「ヤマハらしさの表現」をテーマに後継機開発に着手し翌年、1998年10月に『ネットボランチ RTA50i』が誕生しました。



#### **| ブロードバンドVPN時代の幕開け**

高信頼性を求める金融、自治体、製造業のブランチオフィス向けルーターとして 1997年からISDNやイーサネットなどの複数 WANを収容できるRT140シリーズ を展開しました。

RT140eは、イーサネットを2ポート持ちWAN回線としてイーサネットとISDNを併用できる当時としては大変珍しいルーターです。発売当初は、ローカルルーターやCATVインターネット接続用に使われていました。2000年以降に急速に普及したADSL回線の登場で本領を発揮。個人向けに普及したADSL



回線は、高速性が評価されながらもインフラとしての信頼性が欠けるため、企業への採用は足踏みをしていました。RT140eの高速性を実現するブロードバンドVPNと信頼性を提供するISDNバックアップを組み合わせることにより、企業へのブロードバンド普及が歩み始めました。2001年末より「小型化・低価格化・高速化」と「ISDNバックアップソリューション」をテーマに開発を着手し、2002年10月に『イーサアクセスVPNルーターRTX1000』が誕生しました。

#### リモートアクセスVPNの実現

ヤマハルーターを使ったリモートアクセスは、ISDN回線やPHS回線などを利用して安心・安全な通信を可能にしていました。しかし、ブロードバンド回線が普及して、新しいリモートアクセス手段VPNの提供が必要になり、2006年にWindows XPやVista用の「VPNクライアントソフトウェア YMS-VPN1」が誕生しました。

#### 新たなファイアウォールの系譜

ヤマハルーターが持っているルーター機能やVPN機能などの基本機能を継承しながら、セキュリティを守る視点でソフトウェア機能を再構築して2007年に「SRT100」が誕生しました。SRT100の後継機種は、名前、外観、ハードウェア、ソフトウェアすべてにおいて、セキュリティ装置としての「分り易さ」を重視して2012年に「ファイアウォールFWX120」を発売しました。



#### LAN製品への取り組み

1998年10月に発売したRTA50iで数台のPCを直接接続できるように3ポートのイーサネット・ハブ機能を搭載しました。インターネットにつなげる端末は続々と増えLANの老朽化と大規模化に伴いLANのトラブルも増えています。そのようなLANトラブルを回避し安定したLAN構築と管理・運用を支援するために2011年にSWX2200シリーズ、2012年にWLX302を発売しました。



#### レーターシェア

RTX1000の発売以降、企業利用者にご支持頂き、IDC Japanの調査対象になった2004年以降、10年間SOHOルーター市場のシェア1位を維持しています。 SOHOルーター市場のセグメントは、平均購入価格が1万6500円~11万円未満の企業向けルーターです。

